



開会日、4人の道議
が道庁北門前から第2
回定例会に臨む姿勢と
決意を訴えました。

初の代表質問にとりくむ真下議員は、戦争法案をめぐる衆院憲法審査会で3人の憲法学者がいずれも違憲」と発言し、各種世論調査では「国会での成立を望まない」が8割を超えています。戦争法案の廃案を求める国民世論が大きく広がっています」と訴え、改憲派の高橋知事の姿勢をただしたとのべました。

本会議後、真下団長は知事の道政執行方針と政策予算についてコメントしました。

「人口減少・危機突破」などと公約したものの、小樽市の周産期医療センターで出産できなく

なり、子育てへの経済支援策が拡充されないなど威勢のいい公約実現には程遠い内容です。復旧のめどがたないJR日高線の調査では、地方創生のスタートラインにもつけないという悲痛な声も出ていますが、知事は、観光と食、新幹線開業関連に予算を集中し、原発再稼働については従来の認識を繰り返すのみです。

道民福祉の増進は言葉だけ、海外投資の呼び込みを不動産にも広げ、ビッグデータの活用などは北海道型トリクルダウン、まるで外需頼みの商社のようなです。北海道の戦争の犠牲と平和、子育てや国民健康保険の負担軽減、個人データの管理のあり方等、命と暮らしを守る立場で臨んでいきま

第2回定例道議会開会・・・真下議員24日代表質問 命とくらしを守るため、「違憲」法案は廃案へ

第2回定例道議会が6月16日開会しました。道政史上初の4期目となる高橋はるみ知事が執行方針演説を行い、政策予算として2731億円を計上しました。当初予算と合わせて2兆8021億円となります。日本共産党道議団は、観光と食関連で32億円を重点配分し、海外投資呼び込み型の政策を表明する知事に対し、地域の困難に寄り添い、平和と道民福祉を守る立場で論戦に臨みます。

知事へ予算要望 旭川療育センター改築へ予算計上!



真下議員を団長とする日本共産党道議団は、5月27日、高橋はるみ知事に2015年度予算に対する重点要望を手渡して意見交換しました。知事への予算要望は4年ぶりです。

真下議員をはじめ、菊地葉子幹事長、宮川潤議員、佐野弘美議員が要望しました。

真下議員は、子どもの貧困・子育て支援策の拡充、JR深川駅や南小樽駅などのバリアフリー・エレベーター設置やJR日高線の早期復旧などを盛り込んだ要望書を手渡し、「一緒に知恵を出しあい力あわせて実現していきたい」とのべました。

知事は、「日高線の復旧工事は一日も早く進むようとりくむ」とのべ、旭川肢体不自由児総合利用行くセンター改築について「私も2度訪問してきたので、問題の細部について共有している」とのべ、早期改築に向けて理解を示しました。

菊地議員は7月から「周産期医療」が停止となる小樽協会の病院の医師確保への道の支援を求め、知

事は「できる限り対処したい」と表明しました。

宮川議員は「北海道は自然エネルギーの宝庫でありエネルギーも地産地消の方向にすすむべきだ」として知事として「脱原発」への意思を示すよう求めました。知事は、原発はより安全が重要という従来の見解を述べるとどまりました。

佐野議員は「カジノ誘致ではなく豊かな観光資源を生かして若者の雇用を生み出すよう支援を」と訴えました。

16日に開会した第2回定例会に療育センターの基本設計予算が計上されることになりました。

真下議員は「これまで当事者のみなさんからお話を伺い、何度も議会でとりあげてきたことが実を結びます。道北・道東の拠点として期待に応えられる機能と利便性を求めています。」

上川総合振興局へ予算要望

6月12日、真下道議、日本共産党旭川市議団と上川管内の町議が上川総合振興局に2015年度予算に対する25項目の要望を提出しました。紺谷ゆみ子局長らが対応し、各部局から回答を受けました。各議員から具体的に要望を伝えました。

旭川療育センター改築へ予算計上！ 道道の安全対策「早急にとりくむ」

旭川市議団らの要望に対し、振興局担当部局から、道立旭川肢体不自由児総合療育センターの改築のための基本設計予算が計上されること、高等養護学校の学校説明会が7月に開催されること、天人峡の遊歩道工事の進捗などについて回答がありました。道議会でもとりあげてきた真下議員はこれから一緒に頑張りたい発言。現地調査を行った旭川旭岳温泉線、東郵便局前の交差点付近の車線減少標識の改善に早



「納税相談を優先すべきではないが改善すべきと求め、総合振興局側は

たいと答えました。また見逃しませぬ！税金滞納」と表記されたホームページも改善することを確認しました

真下議員は、道庁税務課に問い合わせたところ、ショッキンな色は不本意とのべた紹介。道内の7割以上の中小事業者は赤字なのに消費税納付の負担も大きく、事業継承も難しくなっている納税意欲を失うような対応ではなく、納税相談を充実させ、経営を応援するのが行政の仕事とのべました。石川厚子市議はスクー、ルカウンセラーの配置と神楽岡交番の設置、まじま隆英市議は介護利用の充実を要望しました

災害で1月から運休JR日高線

全線復旧早く 党道議団視察

「日高線は1月7日の暴風雪により、厚賀大狩部（おおかりべ）間の一部で線路脇の土砂が流出して地盤沈下がすすみ、線路下の護岸下部が損壊、盛り土の流失などの被害を受けました。現在、鶴川様似間はバス代行運行しています。北海道は復旧工事を約26億円とみておりその負担は難しいとし復旧は早くとも201年の夏になるとの見通しを発表しています」

町長と懇談

真下紀子、菊地葉子、宮川潤道議は8日、被災箇所を視察し、新ひだか町の酒井芳秀町長と懇談しました

酒井町長は通学や通院に影響を与え、観光へのダメージもある

4年復旧しないと、いと中学生の進路にも影響し、人口減少が

すすむ。地方創生というのが復旧がされないことには創生のスタートに恵まない状況。国、道、Jも協力し合い早期復旧をしてほしいと述べました。真下道議団長は災害を機に廃線にするとということはあるはあつてはならない全力で取り組んでいきたいと話しました

被災箇所を調査

懇談後、J北海道側の

案内で被災箇所である大賀大狩部間を調査しました。土砂崩れの跡が残る線路付近を歩き、線路下の護岸側まで行き、土止めの役割がある鋼矢板が波ではがれ変形している様子を視察しました



道政市政懇談会で市民要望を聞く

第二回定例道議会・市議会に合わせ、6月17日、道政・市政懇談会を行いました。



道議・市議の報告に続いて、参加者からも、就学援助、税金滞納者への差し押さえ、歴史教科書問題、柔道授業でのケガへの対応、高齢者の就労対策、無料低額診療の薬代補助、保育・子育て支援、等々、様々な意見や要望が出されました。

この懇談を受けて、議員団で調査もし、今後の議会活動に生かしていきます。